

奨励賞

## 障害者と共に生きるために

伊勢原市立山王中学校 2年 ひろた わかな  
廣田 和奏

「障害者」私はこの言葉に偏見の意味が込められていると思う。

私は小学6年生の時、障害のある2人の子と出会った。

1人目は同じ登校班の子だ。春に引っ越して来た。前の学校では登校班で登校したことがないという。私は班長だったので緊張しながら先頭を歩いた。そしてふと後ろを見るとその子は満面の笑みで登校班のみんなと一緒に歩いていた。私は感心した。たまに列から外れてしまう時もあったが、そんな時は班の子が一生懸命列に戻してくれた。それを見ていると自分が一番年長者だということが恥ずかしく思える時もあったが、何よりその子が楽しそうにみんなと一緒に歩いているのを見て私は嬉しくなった。

2人目は同じクラスの子だ。私はその子と初めて同じクラスになった。今までその子がいたクラスがどのような感じだったのかは知らないが、担任の先生はこう言った。「今年はなるべくクラスの中で生活させてあげようと思う。そしたらこの子もあなたたちもお互いに成長できるから。」例年はほとんどの時間を支援級で過ごしていたがその年は違った。給食を食べたり、委員会や係を決めたり、運動会の練習をしたりいろんなことを一緒に行った。

先生の言ったことは本当で、その子が困っている時がどんな時かを見て助ける「気遣い」ができるようになったと思う。助ける人は毎回同じ人ではなくクラスのみんながしていたのでみんなが成長した。その子がいるだけでクラスみんなが成長するのはすごいと感じた。そして1人目の子と同じでその子も楽しそうにみんなと一緒に過ごしていた。

この2人から私はいろんなことを学んだ。その1つは「障害がある人は健常者と一緒の行動ができないわけじゃない」ということだ。たまに友達との会話の中に変な行動をした人を指す言葉で「お前障害者かよ」などという

言葉が出る。本当にひどい言葉だ。変な行動=障害者と決めつけるのはおかしい。一緒に行動していく中で時には難しいこともあるが、その時は周りにいる人が助けられなければならないこともできるようになる。そして周りにもその喜びを一緒に感じることができる。

もう一度言うが、私は「障害者」という言葉に偏見の意味が込められていると思う。「障害者」を辞書で調べると、「身体障害・知的障害・精神障害があるため、社会生活に継続的に相当な制限を受けるもの」と表現されていた。その通りだ。でも私はそこで終わりにしてほしくない。障害のある人でもできることを作っていかなければいけない。この前見たテレビ番組で、障害者を社員として受け入れている会社の葛藤を描いたドラマがあった。最初は慣れない障害者のことでぶつかり合っていた社員達だったが、みんなの知恵や気遣いでその会社は大企業になった。私はそれを見て思った。障害のある人を健常者と同じ社会の一員にするにはまず「周りが変わらないといけない」ということを。

思い返してみると、前の2人も周りが手助けしたことで立派にチームの一員になれていた。障害者だから一緒に生活できない。障害者だから一緒に働けない、そういう風潮を作っていたのは私達だった。障害のある人でもできることを増やすためには周りの人が意識から変えていくことが大事だ。障害者が当たり前で働く未来、障害者が多くの時間一緒に生活できる未来にするため、今から私達は何ができるだろう。例えば、友達と手話教室に行ってみる。インターネットで障害にはどのような種類があるのか調べる、本で障害のある人とどのように接するのいいのか読んでみる。この社会で生きるみんなが小さい行動を起こせば、そんな未来にできると思う。